

旅行業から見た阪神大震災

私たちの奮闘記

目次

●グラビア

事務所が消えた	5
街が崩れた	6
日本通運神戸旅行支店(神戸新聞会館事務所) 荷物・貴重品・回収作戦	8
阪急交通社神戸支店解体現場	10
復興1年の神戸三宮界限	12
<hr/>	
阪神・淡路大震災3年の軌跡	13
被災状況一覧(震災直後)	14
発刊にあたって	15
発刊によせて	16

●震災体験レポート

株式会社 アミューザ	20	西鉄旅行株式会社	41
株式会社 エスプリツーリスト	20	株式会社 日本交通公社	42
エムオーエアシステム株式会社 (現株式会社 エムオーツーリスト西日本)	21	日本通運株式会社	44
川崎航空サービス株式会社	22	株式会社 日本旅行	45
近畿日本ツーリスト株式会社	23	株式会社 農協観光	45
コープ観光株式会社	24	株式会社 阪急交通社	46
株式会社 神戸観光	26	阪神電気鉄道株式会社 旅行部(阪神航空)	50
神戸新聞旅行社(神戸新聞興産株式会社)	27	株式会社 ヒットカンパニーリミテッド	51
株式会社 国際ツーリストビューロー	30	ブルームツーリスト株式会社	52
株式会社 山陽交通社	31	名鉄観光サービス株式会社	54
神姫観光株式会社	33	郵船トラベル株式会社	54
株式会社 神港ツーリスト	34	株式会社 読売旅行	56
神鋼トラベルサービス株式会社	36		
神鉄観光株式会社	37		
東急観光株式会社	38		
東武トラベル株式会社	40		

※掲載は、原則として社名50音順です。

●座談会

今後の危機管理のために

大震災を語る	57
--------	----

●各社提供参考資料

神鋼トラベルサービス株式会社

地震防災対策	63
非常持ち出し(貴重品・重要書類等)	65

日本通運株式会社

阪神大震災における検討事項	67
兵庫県南部地震対策関連事務連絡(状況報告)	69
兵庫県南部地震対策関連事務連絡(新聞会館持ち出しリスト)	70
新聞会館物品回収作戦について	71

株式会社 阪急交通社

「災害の発生に当面して」	72
兵庫県南部地震に関して	74
平成7年兵庫県南部地震状況報告	75
励ましをいただいた人への御礼の手紙	76

●関係各機関からのレポート

兵庫県旅券事務所 歴史的な大震災と旅券発給業務	79
全日空 大阪仮事務所での営業活動	82
日本エアシステム 「阪神・淡路大震災」を振り返って	83
日本航空 阪神・淡路大震災回想	84

●読み物

Viva 壊滅的被害からの蘇生!!(神鉄観光 <small>株式会社</small> 旅行部部長 高嶋重次)	85
阪神大震災と私(県立須磨東高校二年 山崎奈緒)	90

●資料

神戸／明石・姫路地区大手旅行4社取扱額の推移(総額)	93
神戸／明石・姫路地区大手旅行4社取扱額の推移(国内・海外別)	94
JATA NEWS LETTER／JATA 関西支部 News Letter／トラベルジャーナル誌各震災関連記事索引	95
震災関係参考図書	98
JATA兵庫地区会会員名簿(95年1月9日現在)	102
JATA兵庫地区会会員名簿(97年10月現在)	104

あとがき	107
------	-----

事務所が消えた

阪急交通社神戸支店が入居していた三宮ビル北館。9階建てのビルのうち、同支店があった3階部分が上層の階に押し潰されて8階建てになってしまった。もしオフィスアワーに地震が発生していたら、と思うとぞっとする光景だ。結局、書類や備品類を取り出したのは、震災8カ月後の9月になった。



街が崩れた

レトロモダンな雰囲気、神戸の象徴として親しみ深かった阪急三宮駅も瓦礫と化してしまった。街が崩れ、道が塞がれ、交通網は寸断された。当日出勤できた社員は、非常に少なく、拠点が確保できない状態が続





- ① JTBの団体旅行海外支店から見た風景
- ② 神戸市役所2号館も中間階の崩壊
- ③ フラワーロードの明治生命ビルも中間階の崩壊
- ④ 東急観光が入居していたビルも傾き、いつ崩れるかわからない。設備類はすべて放棄せざるを得なかった
- ⑤ 神戸と大阪の交通路として活躍したサンタ・マリア号
- ⑥ 店舗が潰れ、三宮センター街に臨時の店を構える
- ⑦ 中華街では炊き出しに長い列ができた



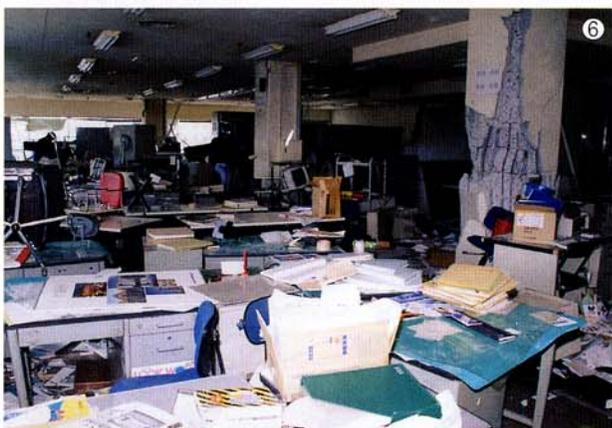
日本通運神戸旅行支店

(神戸新聞会館事務所)

荷物・貴重品・回収作戦

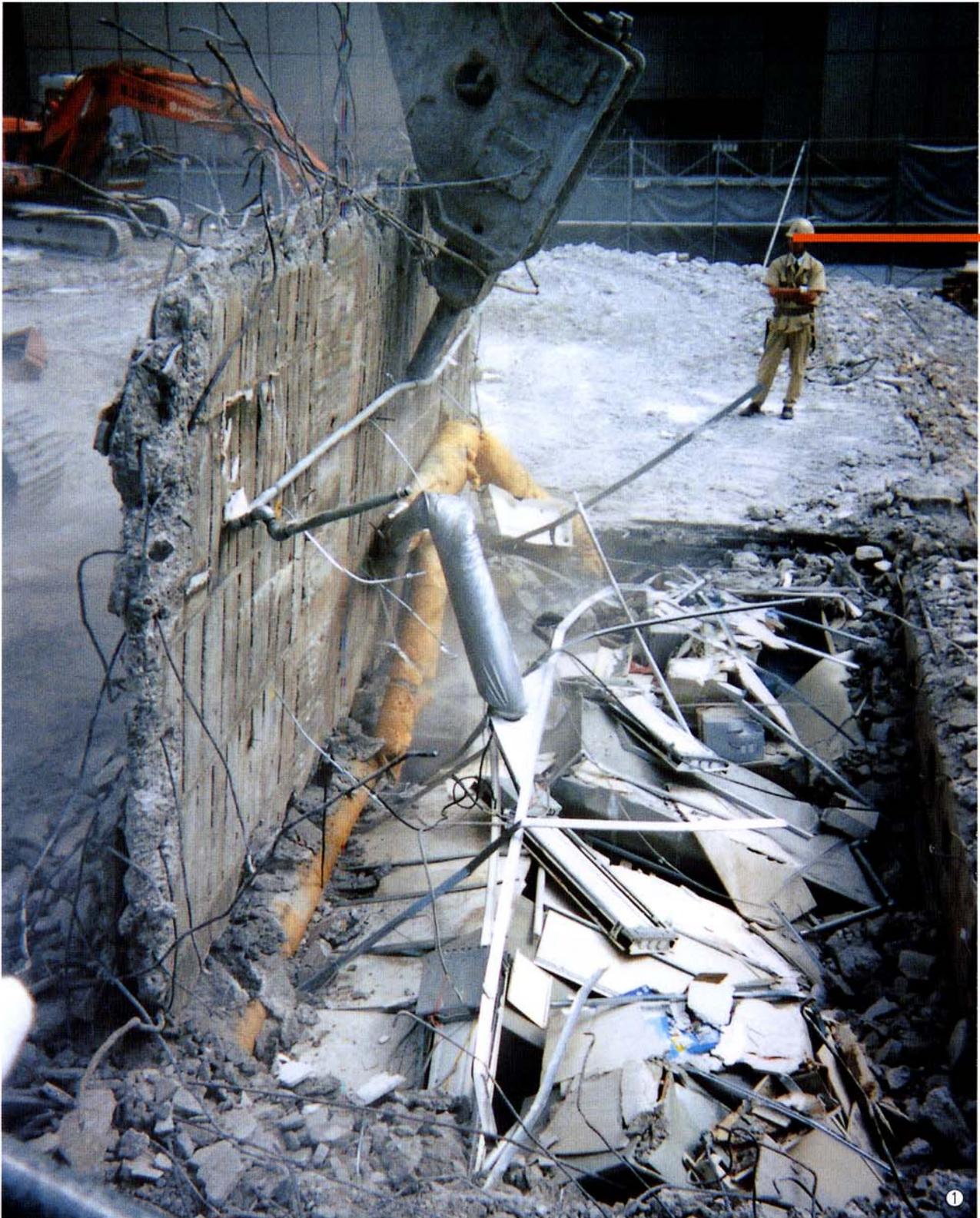
震災9日目の1月25日、日本通運日通旅行神戸旅行支店が入居していた神戸新聞会館で、各テナントによる物品等の回収作業が行われた。屋内の階段は使用不能、建設現場の仮設階段を使って、荷物類の搬出が行われた。いずれもヘルメットを着用、事故の際の責任も自分で負うという条件の中、文字どおり決死の作業が行われた。





- ① 日通旅行、神戸新聞旅行社、日本航空、日本交通公社などの事務所が入居していた神戸新聞会館ビル
- ② 回収作業の前に、事故等の責任は自分で負うという書類に署名が求められた
- ③ 当日作業に参加した日通旅行の面々
- ④ 回収作業に集まった入居者
- ⑤ 事務所内の棚はほとんどが倒れ、書類が散乱していた
- ⑥ 今にも折れそうな柱。事務所の中は暴風雨が過ぎ去った後のようだ
- ⑦ できるだけ短時間での作業。手際よく進めるためには事前の作戦準備と的確な指示が必要
- ⑧ 指示に従い、段ボール箱に必要書類を詰めていく
- ⑨ とりあえず、仮事務所を用意。すぐに会議室を借りられたのは、ラッキーだった
- ⑩ 回収作業を終え、仮事務所に到着。全員無事でほっとする





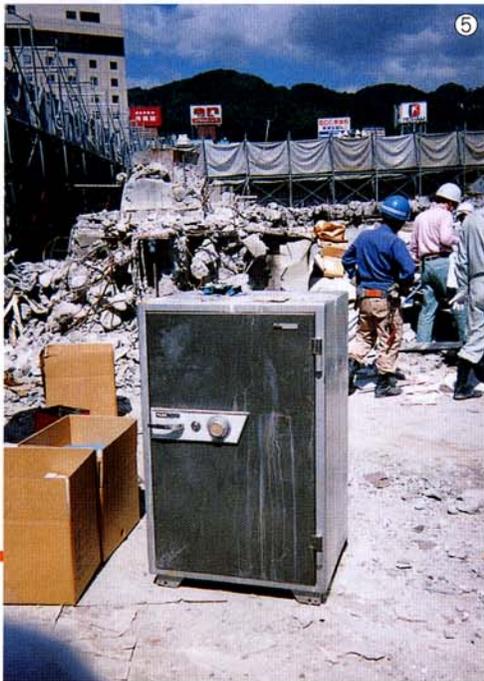
阪急交通社神戸支店 解体現場

平成7年9月1日

阪急交通社神戸支店が入居していた三宮ビル北館は、ちょうど事務所があった3階部分がペしゃんこに潰されてしまった。ビルの解体作業が始まったのは、地震発生後8カ月もたった9月。ビル全体を一度に解体するのではなく、9階から1フロアずつ、はがすようにして解体作業が行われた。50cmに圧縮されていた事務所が、ようやく陽の光を浴びた。



- ① 4階の床(3階の天井)を持ち上げた状態。50cmに圧縮された事務所の内部
- ② 事務所内の設備機器、備品、CPU類もすべてめちゃめちゃになっていた
- ③ 瓦礫と化した事務所内部から、書類等の搬出作業を必死に行う
- ④ まるで焼け跡のような解体作業現場。記憶にもとづいて重要書類を探す作業が続く
- ⑤ 唯一、無事な姿を見せたのは金庫のみ。内部の有価証券類や貴重品は無事に守られた





復興1年目の三宮界隈

遮断されていた交通網も徐々に回復、道路にはトラックだけでなく乗用車も増えてきた。震災から82日目には、山陽新幹線も開通、あきらめていた旅行需要も戻り始めた。都市再生はこの後も急ピッチで進められた。

- ① 三宮駅前風景。左がそごう、右のタワービルは神戸市役所。正面、フラワーロードの先はメリケンパーク
- ② アーケードが取り外され、青天井になった三宮センター街。クリスマス前とあって、サンタは例年通り登場(98年3月、3年ぶりにアーケードが復活した)
- ③④ そごうとJR三宮駅を結ぶ陸橋から西を見る。阪急電車の三宮駅は取り壊され、見通しのいい風景が広がる

